

放送大学 北海道同窓会会報

第 16 号

発行 放送大学北海道同窓会

編集 広報担当

発行日 2010 年 5 月 25 日(火)

会員数 181 名(2010 年 3 月 31 日現在)



はじめまして

北海道学習センター所長 筑和正格

4 月 1 日に所長に就任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

最初に、これまでの私の活動を簡単に紹介させていただきます。1973 年に北海道大学に就職して以来、ドイツ語教育にずっと従事してきました。それに加えて、学部教育では総合講義:「文学概論」「都市と文学」、一般教育演習:「ベルリン、都市と文学」を、大学院教育では「現代都市文化論演習」「国際地域文化概論・特論」などを担当しております。

研究領域はドイツ文学からスタートしました。19 世紀後半のベルリン社会を写實的に描く「社会小説」に取り組んだのですが、この研究の過程で浮上したのが「都市と文学」というテーマです。このテーマは、必然的に「文学」(＝虚構)と「都市」(＝現実)の関係の探求を要求します。こうして、文学研究に社会学的要素が加わってきました。2000 年に設立された新しい大学院での授業ではこの要素をさらに進展させ、上述の「現代都市文化論」の中で、社会学的文化論に取り組みました。これは、「文化」を、芸術や学問といったいわゆるハイカルチャーの範囲でのみとらえるのではなく、「生活文化」を重要視する文化論です。そして、現代の「生活文化」の研究は、すぐさま「まちづくり」の問題にたどりつきます。こうして、北海道大学における教師生活の最後の数年はドイツ語を教えつつ、「まちづくり論」を語るという日々を過ごしております。

放送大学に奉職して嬉しかったのは、6 月の函館講演会の演題として、函館教育委員会の方から「ゲーテ」をリクエストされた、ということです。天才ゲーテの人と生涯は、現代に生きる私たちにとっても身近な問題を提起しているので、講演にいらした方々に張り切って語りかけたいと思っております。

以上、長々と私事を綴りましたが、就任早々ということに免じてお許し願います。

会員の親睦をはかり、母校の発展に寄与するという目的をもつ同窓会は、放送大学と関わりをもたれた方々の心理的かつ物理的な拠り所と言えます。また、仲間意識に支えられた人間の絆を創り上げることが可能な場でもあります。この仲間意識が尊いのは、それが俗世間的な利害関係とは無縁だからです。たとえば、同窓会を、自己の私的な経済活動の場(「同窓会を利用して儲けよう」と考える人は、まずいないでしょう。無償の活動がもつ清々しさがそこにはある、と言えます。

大学の名声は、様々な要因によって高められます。そして、この1大要因が、言うまでもなく、「良き卒業生」の存在です。「良き卒業生」とは、母校を離れてからも母校に愛着と関心を寄せ、母校の「アメニティ」向上のために、折に触れて貴重な提言をしてくださる方々のことをいいます。北海道学習センターも開設20周年を迎えて、さらに質の向上を目指さなければなりません。どうか「良き卒業生」として積極的に母校を支えてください。もちろん、母校側の代表として、私も同窓会活動を支援してまいります。どうかよろしくお願い申し上げます。



同窓会：その発足と発展を眺めて

富田 房 男

北海道学習センターに同窓会ができたのは2004年のことである。私が所長に就任して以来3年を経てからである。同窓会(Alumni Association)は、欧米においては母校の支援組織として、また母校の監視役として極めて重要な働きをしていることはよく知られているところである。例えばよくないが水戸黄門のような役割かもしれない。放送大学とは独立した組織であることは言うまでもないが、母校への支援及び監視役としての働きを期待しているところである。しかしながらややもすると単なる基金(寄付)集めの手段でしかなる危惧もある。

私も是非とも同窓会を設立して欲しいとの願い就任当初より持っていたが、放送大学は学生の顔の见えない欠点があり、組織化には極めて困難であった。ある方からは、そのようなものは意味もないし、そんなものが出来る筈もないと言われたことを記憶している。

しかしながら、放送大学の将来を考えるならば、同窓会は必須のものと考えた。つまり遠隔学習・生涯学習をその中核の役割とするのであるなら、同窓生からの働きかけは、放送大学のカリキュラムの編成や大学運営に対する意見・提案は極めて貴重なものとなる。また、母校の広報にも重要な役割を果たしていただけるものであり、単なる募金の母体ではない。幸いにも何人かの方が私の考えに賛同いただき、加藤氏を会長とする同窓会が立ち上がったのが2004年だった。しかし残念なことにさまざまの予期せぬトラブルのため、早急な改革を必要とした。そこでかなりの越権行為であることを承知して、会長及び幹部の交代をお願いした。

この折に幸いにも2代目会長をお引き受け下さったのが牧野金太郎さんでした。牧野さんの指導のお陰で先に述べた本来の活動ができるようになった。同窓会誌を出して戴くこと、さまざまのセンターへのご提言、学習発表会、学生集めなどに知恵を絞っていただきました。ここによりやく同窓会が形をなして働き始めました。このときある程度の科目を収めた方を「得士」としてはどうか?との提案を受けて、本部及び丹保学長に提案した記憶がある。これが勝手ながら今のエキスパート制度につながっていると思っている。また北海道放犬生賛

歌も募り、同窓生の岡本理江子さんの詩に、客員教授長谷部清先生の奥様美恵さまが曲を付けてくださった。こんなことが出来たのは北海道センターにしかないことである。更に、長谷部先生は、電子ピアノをこれに因んで寄付して頂いた。これがもとになって学友会のサークル：歌う会も発足できたことを考えると真に素晴らしい貢献である。また、生涯学習研究発表会も始めて下さり、お互いに生涯研鑽を重ねるとともに同じ思いの者の交流が出来るようになったのは画期的なことである。

同窓会は、札幌のみならず帯広、旭川にもできた。それらの交流が可能になっているのはこのような働きの結果である。このようにさまざまなことを先頭に立ってリードして下さった牧野さんが癌のためあつと言う間に亡くなられたことは大きな悲しみであり、痛手であった。しかし、牧野さんの遺志を継いで下さり、その活動を続けて下さった次の会長の伊東さんにも厚く御礼申し上げたい。そして現在の中根会長へと代々の会長の蓄積を生かして前進して下さっていることで今後の北海道学習センターのためにも延いては放送大学全体のためになるものである。これからのますますの発展を期待したい。

同窓会の通常概念からすると放送大学がその支援をするのは通常の大学と同窓会の関係でいえば妙に見えるかもしれないが、放送大学が何らかの支援をすべきと思う。その理由は、放送大学の特性によるものである。つまり、放送大学の同窓会は、放送大学を卒業した者の会である。一方、放送大学生には、リピーターが多い、のである。とすれば必然的に、同窓会と学友会の区別がつかなくなってくる。敢えて違いを言えば、同窓会に入るには、放送大学を卒業生であることが要因である。また北海道では卒業式で祝辞を述べるのが同窓会々長であり、お祝いの懇談会を開くのが同窓会である。しかし、エキスパート認証者もその資格がある。放送大学での学習の楽しさと意義を最もよく知っていて、周りに影響を与えられるのも卒業生である。とすれば大学として同窓会に寄付などのお願いをするのもやむを得ない面もあるが広報活動などに最も効果的に貢献しているのが同窓会であることを配慮して何らかの支援をするのも重要なことではなかろうか？また、学友会と協力してさまざまな行事、例えば研究発表会や文化祭など、を共催することをお願いしたい。繰り返しになるが放送大学は、遠隔学習、生涯学習で教養をいつまでも高め続けられる場であり続けるには、同窓会員が学びたいこと、学ぶための制度改革などさまざまな提案を地域センター及び大学本部に対して行い、大学を学生・同窓生のサイドからもカリキュラムを含め提案して、良い大学を共に創ることが出来る我が国唯一の大学であると信じているし、そう進むべきと考えている。

学生のサイドでは、既にグランドスラマーがいて、更に勉学しようとしている。その結果、名誉学生制度もできたわけであるが、更なる進展は、放送大学の重要な存在価値を作り出すものと信じている。

私は、ここで放送大学の学生になって、遠隔学習、生涯学習を履修し、教員の経験を持つ学生として新たなる提案もできるように努力しようとかんがえております。更に、同窓会にも放送大学の卒業生として会員になりたいものと願っていましたが、総会で特別会員で参与に任命されましたので、先ずは、特別会員として貢献できるように目指します。

放送大学の地域のセンター長が学生として入学するという動きは、私に限った事ではあり

ません。現在、放送大学の教授会のメンバーである地域センター所長は 10 名おります。そのうち 4 名が定年で退職しましたが、全員が放送大学の学生になりました。これは我々が相談してやったわけではありません。図らずもこのところの教授会メンバーとして働いたわけですが、違った側面から放送大学に貢献できないものかとの思いが、同じ思いになったわけです。正直これには驚きました。どうか皆さんも我々の感じているところを汲んで頂き共に歩ませて下さい。どうか私を含め学習センター所長の意気の高さと放送大学の理念遂行の熱意を感じ取っていただきたい。

平成 22 年度定期総会開催



平成 22 年度定期総会が 5 月 1 日（土）午後 3 時から、学習センター 6 F 会議室で開催されました。会長挨拶の後、顧問の筑和学习センター所長からご挨拶を頂き議事に入りました。第 1 号～第 3 号議案（平成 21 年度事業経過報告・会計収支決算報告・会計監査報告）、第 4 号～第 5 号議案（平成 22 年度事業計画案・会計収支予算案）、第 6 号議案（役員改選）、第 7 号議案（その他）について、いずれも可決承認されました。

議案書は送付したとおりです。次ページより議案書の一部、第 2 号・5 号・7 号のみ掲載いたします。平成 22 年度の北海道同窓会の主な行事予定としては、

1、諸会議の開催

- （1）定期総会を 5 月末までに開催します。
- （2）役員会に必要な都度開催します。
- （3）三役会、臨時役員会は必要に応じて開催します。

2、各種の行事

- （1）「卒業・修了を祝う会」を年 2 回の「卒業証書・学位記授与式」に合わせ開催します。あわせて卒業生の感想文を「ひとこと集」にまとめ発行します。
- （2）第 6 回全道生涯教育研究発表会を 6 月 5 日（土）に道民カレッジとの連携講座

として行います。

(3) 第2回「みんなの音楽祭」を8月21日(土)に開催します。

(4) 学友会等のサークル活動などの行事に参加し、同窓生と在学生との交流を深めます。

3、会報の発行

年2回以上発行します。

4、広報活動

(1) 年2回(9月・3月)の卒業にあわせ、会員募集を実施するほか、センターの掲示板を使った広報活動を年間通じ実施します。

(2) 同窓会のホームページを活用し、会の活動をPRしていきます。

第2号議案

2009年度会計収支決算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

○収入の部

単位:円

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
繰越金	237,423	237,423	0	
繰越前受会費	122,000	122,000	0	2010年度以降分
入会金	30,000	30,000	0	前受入会金20,000
年会費	140,000	154,000	14,000	前受会費77,000
その他の収入	577	20,217	19,640	受取利子217、富田所長20,000
当期前受会費		189,000	189,000	2010年度以降分
合 計	530,000	752,640	222,640	

○支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
通信費	20,000	20,030	30	総会案内送料ほか
事務費	20,000	10,660	△ 9,340	コピーカード、USBメモリーほか
行事費	107,000	97,029	△ 9,971	
（生涯学習研究費）	25,000	9,853	△ 15,147	下記の内訳のとおり
（会報・広報費）	35,000	43,180	8,180	下記の内訳のとおり
（卒業を祝う会費）	25,000	-4,759	△ 29,759	下記の内訳のとおり
（ホームページ費）	12,000	5,315	△ 6,685	
（その他）	10,000	43,440	33,440	ラテン音楽のタペ
連合会加盟費	7,500	0	△ 7,500	
旅費交通費	45,000	18,000	△ 27,000	
（交通費）	25,000	18,000	△ 7,000	役員等交通費補助
（旅費）	20,000	0	△ 20,000	連合会会議旅費補助
予備費	208,500	8,000	△ 200,500	
次期繰越前受会費	122,000	311,000	189,000	下記の内訳のとおり
次期繰越金		287,921	287,921	預金340,491、郵便振替258,430
合 計	530,000	752,640	222,640	残高598,921

行事費の内訳

項 目	収 入	支 出	決算額	備 考
生涯学習研究費	31,080	40,933	9,853	第5回発表会
会報・広報費	6,000	49,180	43,180	広告収入6,000円
卒業を祝う会	92,000	87,241	-4,759	前期祝う会、後期祝う会

※後期祝う会の記念品代（ひとこと集、贈呈図書代）は次期に繰り越し、支払する。

◎年会費（入会金を含む）前受金納入状況

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
前受金	113,000	55,000	42,000	32,000	22,000	13,000

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度以降分	合 計
前受金	9,000	6,000	5,000	14,000	311,000

第5号議案

2010 年度会計収支予算

(2010年4月1日～2011年3月31日)

○収入の部

単位:円

科 目	予 算 額	備 考
前期繰越金	287,921	
繰越前受会費	198,000	2011年度以降分
入会金	30,000	前受入会金17,000
年会費	160,000	前受会費96,000
その他の収入	79	受取利息
合 計	676,000	

○支出の部

科 目	予 算 額	備 考
通信費	20,000	総会案内送料ほか
事務費	20,000	コピー代ほか
事業費	135,000	下記内訳のとおり
（生涯学習研究費）	20,000	資料代収入との差額
（会報・広報費）	50,000	会報・広報制作費、送料ほか
（卒業を祝う会費）	25,000	祝う会費、記念品代との差額
（ホームページ費）	10,000	ホームページ運営費用
（その他）	30,000	音楽会・講演会などの行事
連合会加盟費	8,500	50円×会員数
旅費交通費	45,000	下記内訳のとおり
（交通費）	25,000	役員交通費補助
（旅費）	20,000	同窓会連合会会議旅費補助
次期繰越前受会費	198,000	2011年度以降分
予備費	249,500	
合 計	676,000	

第7号議案

放送大学北海道同窓会役員

2010/5/1

会長	中根 恵美子	幹事	鈴木 誠
副会長	大橋 ちよ子	幹事	小野 千秋
副会長	結城 愛子	幹事	小島 信子
副会長		幹事	具志 千晶

監査	竹井俊介	監査	長谷部 清
----	------	----	-------

参与	富田房男	参与	学友会会長	小林祐吉
----	------	----	-------	------

2010 度活動予定

交流活動予定

4 月 10 日	富田房男先生 「退職記念講演会」開催	4 月 25 日	環境保全清掃活動
4 月 29 日	2009 年度第 5 回役員会	4 月 29 日	サークルとの合同親睦会
4 月 29 日	2010 年度副会長選考委員会		
5 月 1 日	定期総会		
同日	北部食堂にて親睦会	5 月 日	サークルとの交流
5 月 19 日	第 1 回役員会	6 月 6 日	環境保全清掃活動
5 月 25 日	第 16 号会報発行	6 月 21 日	環境保全清掃活動
6 月 5 日	第回全道生涯学習研究発表会	7 月	サークルとの交流
8 月 21 日	第 2 回音楽祭	8 月	環境保全清掃活動
8 月 日	第 2 回役員会	9 月	サークルとの交流
9 月 25 日	前期「卒業・終了を祝う会」	10 月	サークルとの交流
10 月 10 日	前期「ひとこと集」発行	10 月	環境保全清掃活動
10 月 日	第 17 号会報発行		
10 月 日	第 3 回役員会 ・正副会長選考委員会		
		12 月	サークルとの合同親睦会
		1 月	サークルとの交流
2 月 日	第 4 回役員会	2 月	サークルとの交流
同日	正副会長選考委員会		
3 月 27 日	後期「卒業・修了を祝う会」	3 月	サークルとの交流
4 月 10 日	後期「ひとこと集」発行		



富田房男先生

「退職記念講演会」開催

記念講演：

放送大学 北海道学習センター前所長
富田房男 先生

演題：

「 放送大学の7年間と未来への展望 」



放送大学 北海道学習センター前所長 富田房男先生が3月31日付けを以って放送大学を退職された事を記念し、去る4月10日(土)、「退職記念講演会」を北海道学習センター学友会と北海道同窓会の共催及び北海道学習センターの後援で開催しました。富田先生にお世話になった学生・同窓生など100人以上が出席し、大講義室は、パイプイスを持ち込むなどの満席状態。受講生の熱気の中、就任から7年間の先生のご活躍の総まとめと未来の放送大学のあり方や放送大学が北海道において重要な役割を担っていることもお話しされ時間が経つのを忘れるほどの充実した講演でした。

本部教授と在学生・同窓生との懇談会



平成22年3月17日学習センター6階会議室で本部から教授3名事務員1名と在学生・同窓生で放送授業面接授業などについて活発な質疑応答があった。

又、大学に対する要望なども出され、遠隔地同時面接授業に際しての視聴覚機具の整備が必要であるとの要望に対し、北海道学習センターの管轄面積より沖縄の方が広く学習条件は同様であるとの回答であったが、今年度に学長特別予算で購入予定が決まっているとの事であった。

2009 年度 2 学期卒業・修了を祝う会報告

＜卒業・修了を祝う会の様子＞



ご卒業・修了された皆様から寄せられた喜びの「ひとこと」です。

室蘭市 小島 信子

放送大学で学びたいと考え、始めは科目履修生として入学し、仕事及び家族（子育て、子どもの結婚、親の介護）等で長い年月を経て今回卒業となりました。長くて厳しい道のりとそれを克服した喜びで胸が一杯です。

又、色々と支えてくれた家族及び友人、職場の方々に心から感謝申し上げたいと思います。

これからは放送大学で学んだことは仕事を通して社会への貢献一つでも還元できるよう努力したいと思います。又この学ぶということを生涯持ち続けていきたいと思っています。

放送大学（発達と教育）を卒業して

結城 愛子

私は、定年退職と放送大学の卒業をこの 3 月に同時に迎えることができ、人生の節目となり新たなスタートをすることができました。室蘭から通うこと 5 年、看護教員として教える立場と学生として学ぶ立場の 2 つの立場から「学ぶとは？」を考え続けることができたと思います。

放送大学での学びたいという多くの人々に出会い、多彩な経歴を持ち今の自分に満足することなく学ぼう、知ろうという姿勢が伝わってきて感動を覚えました。その中にいる自分が生き生きしているように感じます。

放送大学に入学した動機は、健康問題や人間に関わる医療・看護の仕事から健康を害する自然破壊や地球温暖化、後世に健康な地球を残せるのかという危機感から根本的に考えてみたい、教育に携わるものとして「育てる」ことはどういうことかを考えていくということでした。

単位認定試験や面接授業は週末になるように選考し、朝早起きし J R に乗り、通いました。限られた時間での学習は、移動の時間も貴重な学習の時間でした。時間は十分あるからでき

るのではなく、時間の使い方なのだと実感しました。学ぶ仲間がいて、辛いときもその辛さを共有でき、学習を続けられたのも多くの支えがあつてのこと、本当に感謝しています。

自分の知らないことが多くあり、その分野で研究や解明されていることが多くの先生を通して知りました。物事を深く、根本的に考えていくことはできましたが、未だ納得いくまでには至っていません。それは、歴史、哲学、環境などです。私の専門である在宅看護論や緩和ケアを医療・看護以外の分野から広い視野で見つめなおしたいと考えています。

学ぶ事は楽しい、実践で裏づけされていくことはもっと楽しい、学ぶことに「年齢は関係ない、やりたいと思ったときがやるとき」と看護学生に言ってきました。生涯学習を続けたいと思います。

再入学し、「人間と文化」を専攻し学習を続けます。学習できる環境に身を置くことで実践につなげていきたいと考えています

卒業修了を祝う会の様子



本部卒業祝賀会での様子



卒業・修了生から寄贈図書のお知らせ <2009 年度2学期>

北海道同窓会では、2009 年度 2 学期の卒業・修了生から放送大学北海道学習センターへ寄贈図書をする橋渡しをさせていただきました。

今回は、卒業生・在学生からのご希望の図書がありましたので、それらの本を寄贈図書といたしました。

皆さんの学習・研究、そして、身近な問題に役立てて頂けると思います。また、読んだ感想などもお寄せいただきたいと思います。

今後も、購入希望の図書がありましたら、同窓会事務局まで申し出ください。

今期の抱負

会長 中根恵美子

私の任期は今年度で終了します。明るく活動的で楽しく、又、機能的に行動する同窓会のお世話係りを目指して頑張ってきました。今年度も張り切って働きます。そして限りある予算を会員の皆様にとって有効に活用出来るように、又、会運営がガラス張りで風通しが良く皆さんから世話人の動きがしっかり見えるよう頑張ります。「共鳴・共振・共感」をモットーにして会員も世話人も一緒に活動しましょうね。「楽しくてしょうがない会」の同窓会にしたいと思っています。

在学生や学友会・サークルなど幅広く交流し、又、協力して会員の学業を陰からサポートしつつ、母校の発展に寄与し、環境保全のボランティアを通して社会にも寄与して行きたいと願っています。そしてこれから同窓会を引き継いで行く後輩により良い運营地盤を築くよう努力してまいります。

尚、同窓会のお世話係りを募集していますので、お気軽に声を掛けてください。

新役員就任挨拶

副会長 大橋ちよ子

副会長に再度、選任され、身の引き締まる思いで、同窓会の活動に関わらせて頂きます。

2004 年度の設立時から今年度に至るまで、役員は、会員の皆様と共に試行錯誤しながら歩んできております。それらは、まるで、小さな小舟から、荒海に出て行くような気概と勇気のあるエネルギーを包含しておりました。そして、年々、その小舟に、少しずつ設備を整えながら、中舟に変え、さらに新たな海そして大海に出て行けるようにしたいと念願しています。

さらに、学友会など学生団体との交流の構築し、ご支援を得ながら、会員の親睦と研鑽そして在学生の勉学しやすい環境にするために、一役を担って行きたいと思えます。

今後ともご指導・ご協力そしてご参加などよろしくお願い致します。

副会長 結城 愛子

今年 3 月に卒業したばかりで同窓会副会長を引き受け、緊張しています。3 月、同時に定年退職し、室蘭から札幌に住居を移し生涯学習を自己のテーマに考えているところです。再び、4 月から新たな学部で学生を始めました。

同窓会の目的である生涯学習・相互の親睦・母校の発展・全国の同窓との交流に少しでも近づけるよう活動していきたいと思えます。先輩たち築いてきた研究発表会、それを通して普段知ることができなかった思いや成果、体験談、また、学友会・サークルとの交流や機関誌の発行、卒業を祝う会など多くの実績が今の活動・発展につながっています。

東京の同窓会に参加して感じたことは、多くの仲間が全国におり、それぞれ学び続けたいということと思いと長年培ったその人らしも伝わってきました。

自分の経験が何らかの形で同窓会の発展に寄与でき、皆様のご協力とご支援をいただきながら役割を果たしたいと思えます。皆様、宜しくお願いいたします。

幹事 小島 信子

今回 3 月で卒業し同窓会の幹事ということですが、現実的には室蘭で訪問看護ステーションを開設し忙しい毎日です。

何年もかかって漸く卒業した状況で、幹事の仕事は当面、無理ではないかと思いましたが、室蘭で前センター長・富田先生や同窓会会長の中根様とお会いし、室蘭での学習室の開設準備に積極的に動いていることを知りました。

胆振地域での生涯学習の拠点となり、画期的なことであり、充実の重要性を痛感しています。

私の経験から認定試験のため札幌センターに泊りがけで、仕事を休み、家族にも負担をかけ、さまざまなことが解消されることと思えます。職場の方々も放送大学で「いつでも、どこでも、だれでも」がモットーに放送を通して学ぶことを望んでいます。

微力ながら室蘭かと札幌との架け橋になろうと思い、幹事を引き受けることにしました。皆様のご支援とご協力を心からお願いします。

♪♪第2回「みんなの音楽祭」♪♪ -道民カレッジ連携講座 (4単位)

第1部 14:00-15:45

同窓会会員・道民カレッジ生一般の方などの演奏

二胡(張宇—中国の楽器の演奏)、その他の楽器など予定 (休憩)

第2部 16:00-18:00

チェンバロ(明楽みゆき)・フルート(八條美奈子)の共演

曲目 J.S.バッハ フルートとオブリガートチェンバロによるソナタ

M.Th.パラディス シチリアーノ

G.F.ヘンデル 涙のアリア 他

日時 : 2010年8月21日(土) 14:00-18:30

受付 : 13:00 開始 14:00-18:00 終了

ところ : 北大クラーク会館 講堂 〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目(北大構内)

主催 : 放送大学 北海道同窓会 (第2回みんなの音楽祭実行委員会)

後援 : 放送大学北海道学習センター・北海道教育委員会(予)・札幌市教育委員会(予)

<音楽祭のご案内>今回は、上記のように音楽学習・古典音楽の演奏などで楽しめます。

お二人のプロフィール紹介

あけら

チェンバロ : 明楽 みゆき さん

京都出身。大阪音楽大学音楽学部卒業。同学部専攻科修了。大阪音楽大学附属音楽学園、大阪成蹊大学各講師を経て現在札幌にてフリー活動。

V.マルグリス氏(独・フライブルク音楽大学)に師事しアーティストディプロマ取得。フランス国立リヨン・オペラ座管弦楽団及びブリュッセルカルテットのメンバーとの共演を始め多数の音楽祭に出演し、好評を博す。

2001年より美術作家とのコラボレーションシリーズ開始。時計台ニューイヤーシリーズのプロデュース、「音と言葉の絆プロジェクト」にて朗読とチェンバロ即興演奏による公演など多彩な活動を展開中。2006年ベルギーにてチェンバロコンサート。2009年小樽住吉神社、小樽市能楽堂にてコンサート。2008年、2009年北海道大学 総合博物館市民セミナー講師。

ソロ、通奏低音奏者として活躍。2009年7月より石狩美術館コンサートのプロデュース。2010年文化と文化を繋ぐ「現代版北前船プロジェクト」を立ち上げる。

古楽研究会「Origo et practica」、日本イタリア古楽協会に所属。

明楽みゆきさんとの最初の出会いは、四年前の琴似駅北にあるホールでのコンサートでした。私と女房は、20年振りに札幌に戻り、音楽を楽しむ道を探していたところ、明楽さんのコンサートに足を運んだのがキッカケでした。チェンバロのソロとしてのやさしさ・すばらしさ、通奏低音としてのおちついた響きにすっかり夢中にされてしまいました。

チェンバロで聴く、バロックの世界、是非、貴方もご一緒しませんか。

<http://www.akeramiyuki-cembalo.net/akeraprof.html>

<http://www.kitamaebune.com/> <http://www.kitamaebune.com/>

大学院 中川 俊二

フルート：八條 美奈子（はちじょう みなこ）さん（PMF 1998、1999 修了生）

北海道教育大学札幌校芸術文化課程音楽コース卒業、同大学院修士課程修了。大学院在学中にパリ・エコールノルマル音楽院に留学。98年、99年 PMF アカデミーオーケストラに参加。99年、パリ・ガストン・クリュネルコンクールで満場一致の一等賞を受賞。02年度札幌市民芸術祭奨励賞を受賞。現在、北翔大学非常勤講師、ヤマハ講師を勤める。札幌フルート協会常任理事、日本フルート協会会員、ハイメスアーティスト会員。

このように、PMF 1998、1999 修了生で Kitara アーティスト・サポートプログラム～フランスの風に出演されている。活躍している様子は下記などのホームページで。

www.city.sapporo.jp/kikaku/wcs/feature/pmf/05_05_18-5.html

< 語学研究会 ロシア語部門 > — 学生サークルと同窓会の交流 —

学習の様子をメンバーの方から、先生のご家族に宛てたお手紙と写真で紹介致します。

タチアーナ先生・そしてタチアーナ先生のお母さん・お兄さんへ

ようこそ、このたびは、日本へそして札幌へお越し下さいました。昼間は、私どものつたないロシア語の勉強にお付き合い下さいましてありがとうございます。お母さんのウクライナ料理のお話とても食べたくまりました。お兄さんは農業関係のお仕事ごくろうさまです。ウクライナの広大な大地のお話楽しかったです。夜は、宴会にお付き合い頂き有り難うございました。2次会のカラオケまでお付き合い頂き、とても楽しい時間でした。

お母さんは、管理栄養士のお仕事現役でやられているとのこと、たいへんごくろうさまです。先生、お母さんウクライナのお土産のスカーフありがとうございました。お兄さん、めずらしいバッチをありがとうございました。お兄さんは、柔道をやっておられるとのこと、大変に親日家でいらっしゃるようです。またお会いできる日を楽しみにしています。

どうか、それまでお元気で、お幸せに！

田中一哲・順子



В с е г о с а м а г о - с а м а г о х о р о ш е г о !

Д о н о в о й в с т р е ч и !

会費納入と新入会員募集のお知らせ

2010年度の継続会員の方は、今年度の年会費1,000円を下記口座へ納入くださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金1,000円、年会費(初年度)1,000円を下記口座へご送金ください。(次年度以降は年会費のみとなります。)

郵便口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『ロコミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター
TEL 011-736-6318

新入会員のご紹介！！(敬称略・順不同)

2010年3月卒業生・修了生

(生) 山崎可南子	(生) 高橋 恵子
(人) 小島 信子	(人) 馬淵 悦子
(社) 太田 昌雄	(人) 松原 姫生
(発) 高橋 環	(人) 森高 美智子
(生) 早坂 昌子	(発) 結城 愛子
(人) 家村 共子	(生) 加藤 淳子
(生) 山川 妙子	(生) 五島 真理子
(院) 田中 一典	(院) 山田 孝子
(院) 藤原 琢也	

〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いいたします。

広告原稿募集！

同窓会会報では在学生のサークル活動などの人員募集広告を奉仕で掲載します。次号は9月25日が〆切ですのでこの囲み程の原稿をお持ち下さい。尚、紙面に限りがありますので、先着順とさせていただきます。

お申込はE-Mailにて

tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp 中根宛にお願いします。

「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

放送大学北海道学習センター内

放送大学北海道同窓会

学習センター事務室内ポストに直接投函してく

ださる事も可能です

URL : <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

編集後記

3月末日で、会発足時からご指導・尽力頂き又、同窓会の後ろ盾となって頂いた冨田先生が退職されましたが、今期から当会の参与に就任され、心強い限りです。又、会則にあるとおり学友会との親密な交流をする一環として今期から学友会会長様に参与に就任して戴きました。更に新任所長筑和正格先生が顧問と強い身方が増えました。会員の皆様と一緒に母校を応援していきたいと思っています。ご協力のほどよろしく御願います。

編集者一同